

平成28年度第1回鳥取市政懇話会

日時：平成28年11月28日（月）午前10時～正午

場所：鳥取市役所本庁舎6階 全員協議会室

出席者 【鳥取市政懇話会委員（15名）】

岡村正徳委員、景下明美委員、河毛寛委員、佐々木千代子委員、下澤理如委員、杉野開登委員、田中道春委員、田淵裕章委員、橋本大知委員、林由紀子委員、藤縄匡伸委員、前田伸一委員、松下稔彦委員、森下哲也委員、山脇彰子委員

【鳥取市】

深澤義彦市長、羽場恭一副市長、田中洋介企画推進部長、久野壯地域振興局長、大田斉之経済観光部長、高橋義幸企画推進次長、姫村正仁企画推進部次長

1 開会

2 市長あいさつ

今年度第1回目の市政懇話会に御出席をいただき、ありがとうございます。

新たに懇話会委員に就任いただき、感謝申し上げます。

御承知のように、全国で人口減少、少子高齢化と大変難しい課題がある。本市においても、その課題に立ち向かっていくため「鳥取市人口ビジョン」、「鳥取市創生総合戦略」を策定し、地方創生の取組を進めている。

本市は、いち早く移住定住促進の施策に取り組んでいる。相談窓口を設置した平成18年以来、今年7月で2,000人が移住した。総合戦略でも移住者目標指標を5年間で1,100世帯、2,000人以上としている。

また、平成30年4月に中核市へ移行する準備を進めている。現在、鳥取県から鳥取市に2,500余りの事務を移譲する整理を行っているところ。今年度、国の関係省庁と協議を行い、2月定例市議会に中核市へ移行する申し出の議案を上程し、議決をいただく計画である。

また、現在、麒麟獅子の日本遺産認定を目指している。鳥取県東部1市4町、兵庫県北但西部2町で日本遺産認定に向けて取り組んでいく。

県立美術館については、現在、県が候補地の選定を進めている。県内4か所が候補地。本市の2箇所の候補地は、交通アクセス、関連施設との連携、入館者数の確保等、いずれも優れた場所。このことを改めて県に伝えたい。

本日は、どうか忌憚のない意見をお願いしたい。よろしくようお願い申し上げます。

3 委員自己紹介

4 会長、副会長の選任（事務局より提案すること及び提案内容に委員全員が承諾）

○会長 藤縄匡伸委員

○副会長 林由紀子委員

5 会長あいさつ

市政懇話会は、本日スタートして2年間の任期である。市勢の向上発展を図るため、喫緊かつ重大な市政の課題や市民生活に直結した市政振興策等について議論していくこととなる。

「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」を目指し、官民が一緒になってまちづくりを進めていきたい。そのための提言を積極的に行いたい。

あらゆる分野からお集まりいただいた委員みなさまの活発な議論をお願いする。

6 鳥取市政懇話会について

市政懇話会は、市民の市政に対する要望を広く聞き、市勢の向上、発展を図るために設置している。委員の任期は、2年間で平成28年11月28日から平成30年11月27日までとなっている。前向きな意見、提案をいただけることを期待している。

7 議事

「麒麟のまち圏域の取り組みについて」

(1) 事務局説明

(2) 意見交換

○**藤縄会長** 「麒麟のまち」で心配なことは、鳥取の人は麒麟(きりん)と読めるが、他の地域の方が読めるかということ。パンフレットにふりがながふられていない。併せて、「麒麟のまち」だと、「麒麟ビールのまち」に誤解される心配があるのではないかと。

○**高橋企画推進部次長** 麒麟だが、確かにふりがながあった方が分かりやすいので対応したい。

麒麟ビールの話だが、関西で漢字を使うと麒麟ビールを連想させるという意見をいただいている。連想させないためには、ひらがなを使う方が良いという意見もある。

○**藤縄会長** 「麒麟獅子のまち」が良いのではないかと。麒麟ビールに負けなくらい宣伝する方が良い。「麒麟のまち」では他の地域の方には分からない。

○**森下委員** 同感。地元に住んでいる人間は麒麟というと麒麟獅子とイメージで繋がるが、大事なのは、鳥取県東部地域を全国に発信しようという時に、「麒麟のまち」で本当に分かってくれるのかということ。そう考えると、非常に難しく、苦勞するのではないかと。

東京とか日本全域で考えると、「麒麟のまち」にたくさんの注釈がいるのではないかと。それをできるだけコンパクトにするための努力がキャッチコピーなので、もう一工夫二工夫がいる。

○**下澤委員** 同感。もうひとひねりするとしても、この麒麟獅子という漢字4文字でやったらどうか。麒麟獅子の中には、鹿も猪もいるのでジビエにも繋がる。そういう面白い発信をしてはどうか。

○**河毛委員** 実際に麒麟獅子舞をやっていたので思い入れがある。地域の文化である。実際に舞っていると非常に良いものだが、イベントとなると、スローな踊りで使いにくい。いろんな麒麟獅子舞団体があるので、新たな創作やアピールすることがあっても良い。鳥取であるところに行けば麒麟獅子舞を常時開催している館があって、いつも踊っている・体験できる仕組みがあれば良い。

○**松下委員** 「麒麟のまち」を普及させるには、日本遺産に認定されるのが一番の条件。それは、道の駅に行ったら見える等、いつでも見られることが必要。

全国の人に見ていただくことが必要であるし、「麒麟のまちとは何だろう」と思ってもらい、興味を引くことも必要。東京や大阪で「麒麟のまちって何？」と聞いてもらえ説明ができるのは一つのチャンス。「麒麟のまち」という表現は悪くないし、返ってプラスになるという考えもできる。

○**田中委員** 日本遺産認定の取組には大賛成で、ぜひ日本遺産に登録していただきたい。

「麒麟のまち」だけではどうかと思う。長くなるが「麒麟獅子舞のまち」ではないかと。麒麟獅子舞を今後の観光都市としての起爆剤にしていくのは大賛成である。

○**林副会長** 麒麟獅子を全国に知らせるのは意味があること。麒麟獅子が知られば、「麒麟のまち」でも十分に伝わると思うので、最初が肝心だと思っている。鳥取市が策定した「日本酒乾杯条例」のように、1市6町で何かある時には必ず麒麟獅子舞をする等、もっと普及させないと「麒麟」自体も普及しない。麒麟獅子の踊りもしゃんしゃん踊りのように、別に現代風のものを作ってみてはどうか。麒麟獅子舞を普及させれば「麒麟のまち」ももっとPRできる。

○**田中企画推進部長** もともと鳥取県東部は池田家の関係で麒麟獅子がシンボリックなものになっている。1市4町で組織している東部広域行政管理組合の取り組みも「麒麟の王国」と銘打ってやってきた。その時もあえて麒麟獅子とはつけていない。こちらの意見を述べると、少しは何だろ

うという引っかかるものがあったとしてもいいのではないかと思います。全てが「名称を見て分かりました」というのも良いが、「麒麟のまち」は、我々の中で浸透してきているので、マーケティングも含めて、まずは「麒麟のまち」の名称を関西の情報発信拠点で使いたい。

○山脇委員 そこで興味を持っていただくということなら「麒麟のまち」でもいいと思う。ただ、その時に説明者が統一した話し方、ストーリーをきちんと持たないといけない。さらに写真だけではなく、iPadを使ってVTRなどでPRすることも必要。

祭りの時に麒麟獅子舞をするが、それぞれ時期が違い、見たいと思っても見られない。観光誘致をするのであれば、いつ行ってもここに行けば見られるという場所の提供やVTRをずっと流す等しないとイメージが湧かない。

1点質問。せっかく関西情報発信拠点を作るのなら、そこに関西圏の移住相談員を配置した方が、一般の人は行きやすいと思う。県の関西本部は、一般の人はなかなか行きにくいところだと思うし、関西情報発信拠点に相談員を配置すれば、例えば鳥取の美味しいものを思い出してもらいながら、移住定住の案内ができるスポットになる。

○田中企画推進部長 日本遺産については、今のままで認定され、今のままで展開していこうとは考えていない。まさに言われたように、いつでも見られる常設施設がある等、観光振興、地域活性化等のツールに使っていく必要がある。現在、県が各麒麟獅子の悉皆調査をやっており、併せて、団体の皆様を統合できるかということで、いろんな仕掛けをしている。そこともリンクをしながら、麒麟獅子が鳥取県東部、または兵庫県北但西部に来れば見られるようにするなど、いろんなものを付随させ、地方創生を図っていきたい。

また、環境大学が主導で「麒麟プラットホーム」という組織を作っている。これは大学や行政・経済界で、鳥取県東部1市4町が兵庫県北但西部を含めて地域活性化を図るもので、大学が地域貢献していくための取組をいろんな団体とやっていくもの。

○久野地域振興局長 相談員を関西本部ではなく立ち寄りやすい場所に配置した方がいいのではないかとこの提案があった。どこにいないといけないというわけではないが、実際、東京本部や関西本部に直接相談に来るのは敷居が高い。ただ、相談員には待つだけではなく、個別の相談に出向き、市役所との中継ぎをやってもらっている。年間、約12回開催される移住定住相談会などにも出向き、その後のフォローもやっている。新しい場所での相談対応も考えているところ。最終的にどこに常駐するのかはまだ決めてないが、今は、関西本部内に配置し、県や周辺自治体等と連携しながら進めていきたい。

○森下委員 名前は非常に大事。麒麟獅子の団体をまとめ、組織を作るとのことだが、大事なことだと思う。鳥取の麒麟獅子を舞う年代は、概ね高校生くらいから30歳を超えて、後継者がいないと40歳くらいが実態。小学生の頃から鐘をたたいたり、太鼓をたたいたり、笛を吹いたりすることに、子どもたちも興味を持って参加する。この文化を子どもの頃から育てる取組をしっかりと行っていくべき。鐘をたたくときは男の子だけでなく女の子もついてくる。獅子舞をするのは男の子に限られている。そういった歴史的なものもある。今まで集落等で大変な思いをして受け継いできている麒麟獅子舞を、1市6町でやるのであれば、将来的にはDMOも絡めていけるだろうと思う。いつでもどこでも365日見られるのが良いが、できる頻度で、地元の人も見ることができ、自分たちの住んでいる町・村の麒麟獅子舞だけでなく他の地域の麒麟獅子舞も見られる、そして観光客の方も見られる仕組みが求められると思う。

○河毛委員 ネーミングだけで使われるために「麒麟」を出しているのであれば、麒麟獅子をやっていた人間としては、そう軽々しく「麒麟獅子」を使ってほしくない。麒麟獅子舞はコミュニケーションの場として役に立ち、文化を教えてもらった。

獅子頭が古くなっている団体もある。麒麟獅子を残そうというのであれば、ある程度、財政の補助もしなければならない。また、麒麟獅子を名前として使うのか、文化として残すのか考えた方がいいと思う。基本は神社に奉納なので、宗教的な部分もある。精査しながら団体を作った方がいい

と思う。

移住の関係で、今、石浦関が非常に頑張っているということだったが、その他にも高校野球等いろんな分野で鳥取に学生が来ている。市内にある高校の野球部でも部員が150数名いて、そのほとんどが県外から来ているが、卒業したら地元に戻る。確かに、社会人を鳥取に戻すのもいいが、県外からスポーツ関係で来ている方に対しても定住してもらえるような働き掛けをしても良いのではないかと。また、趣味をするために移住し、仕事を探すという方もいる。

○田淵委員 鳥取青年会議所でも麒麟獅子フェスティバルを2000年から2007年までやっていた。万年室博士の山本氏と「キリノロジークラブ」を組織し、「因幡」を、麒麟獅子を象徴にしてひとつにしようという思いがあった。麒麟獅子舞の盛り上がりが衰退している中、「キリノロジークラブ」の現状はどのようになっているのか。

○姫村企画推進部次長 麒麟獅子舞に関する調査機関に、「キリノロジークラブ」の発起人会である山本氏にオブザーバーとして入っていただいている。一緒になって組織団体を作っていこうということで、県と市と「キリノロジークラブ」と、各団体と一緒に取り組んでいるところ。

○田淵委員 麒麟獅子は、地元の伝統文化でありながら、各地域の団体が継承できずに苦しんでいる。立川では一回断ち切れた子ども獅子を復活させて活動しているが、少子化の中で伝えていけるのかという問題があったり、担い手不足で困っているのが現状。

これから、「麒麟のまち」を象徴として発信していくのであれば、現状の問題を打破しなければならないという危機感をもっている。マーケティングの観点から考えると、ターゲットが都会のビジネスパーソンとなっている中、「麒麟獅子＝鳥取県東部、兵庫県北但西部」とイメージ付けするだけで、プロモーションに非常に苦しむと思う。定着させるまでに10年くらいかかると思うし、戦略的にやっていかないと難しいと思うので、ひとつ提案したい。親獅子の舞というのはコアな人しか興味を示さない。日本の伝統文化に興味のある人は非常に食いつかれるが、一般の人は悠々とした舞に惹きつけられないという部分があるので、子ども獅子と一緒にプロモーション活動をすれば、一般の人にも可愛らしさも織り交ぜて定着させていけると思うので、戦略的に進めてほしい。

○前田委員 私の集落は約40軒だが、その40軒で獅子舞を維持しないといけないという現状がある。ほとんどの集落が集落ごとに獅子舞を持っている。ただその中で、30歳くらいまでで獅子舞を構成していたが、だんだんできなくなり、50代くらいまでやっている地域もある。獅子舞が盛んになるような状況も作りつつ、「麒麟のまち」を作っていくことで地域づくりができればと思う。

定住の問題だが、西郷地区は村づくり協議会の中に「やどかり部」を作って定住を促進している。働き掛けというのは非常に重要だとつくづく思う。やはり動くしかない。そういう意味で、私たちの村づくり協議会はスタッフが一生懸命頑張っている。中身のあるものにするように、皆さんの知恵を借りたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

○藤縄会長 「伝統的麒麟獅子のスタイルを変えてもいいのでは」という、革新的な意見も出た。即答できないものもあると思うので、十分に検討いただきたい。

○岡村委員 移住定住について、東京、大阪での相談会を年1回ということだったが、例えば昨年度の大阪では5時間、東京では6時間30分の相談会。その中で鳥取市に2世帯6名が定住移住されているが、これでは効果が上がっていないと思った。土曜日1日の限られた時間の中で成果を上げようとするのか、複数の日程とか年2回開催する等の検討をしていただきたい。

○佐々木委員 今年は鳥取市への移住者数が少ない。鳥取県は伸びているが、鳥取市は減っていると聞いた。アピールする費用には限度があると思うので、移住定住ができる環境整備に力を入れてほしい。鹿野地域にもIT企業やドローンの会社が来たいという話があったが、光ケーブルが来ていないので話が何件か立ち消えになった。人が人を呼ぶというのが移住定住だと思う。パフォーマンスも大事だけれど、パフォーマンスだけではいけないと思う。

○河毛委員 移住定住するターゲットを年代で絞ることも考えていくべき。

○久野地域振興局長 説明した東京、大阪の相談会は、あくまで1市6町合同で行った相談会のこ

と。それぞれの自治体では年に12回程度、東京と大阪で相談会を実施している。ただ、ご指摘の通り、この数字で満足してはいけない。先ほども鳥取市の数字が減っているとの指摘があった。平成18年に始めた当初に比べると、いろんな自治体がいろんな施策を行っている。みなさまの意見も参考にしながら、本市も施策を見直しながら進めているところ。ちなみに昨年度の移住者数の実績は、178世帯300人。人材誘致という観点もある。若者の希望者、定住者も多い。いろんな魅力や可能性があるというPRもしている。西郷地区で若者の工芸家を取り入れるという地域の特徴を生かす動きも出ているので、市としてできることを整理していきたい。

○田中企画推進部長 どの年代をターゲットにするのかということはやっていない。今、CCRCということで、「首都圏の高齢者を地方に」という動きもある中、本市では、平成18年から移住定住に取り組んでおり、20～30代の移住者が7割くらいと多い。移住定住を促進しているが、企業誘致、雇用とセットになって初めてできるもの。雇用と兼ね合わせてやっている。

○林副会長 来たいという方には来ていただいたらいい。高齢者が移住すれば、若い人が移住はしなくても時々来ることも十分にあり得る。来る方は拒まずに来てもらったらいいと思う。

○下澤委員 私も移住者だが、移住した時は働く場所があった。趣味で来ていただくのもいいが、働く場が無ければいけない。何時から何時まで会社にいないといけないという時代ではなくなってきた。何時でもどこでも仕事ができる時代になってきている。鳥取から情報発信をすることも可能になっているので、企業誘致も大切だと思う。

今、問題になっているのが、高学歴の女性が鳥取では働く場所がないということがある。製造業というのは、どちらかというと男性がやっているの、やはり高学歴の女性が鳥取に移住するためには、違う業種も鳥取に誘致しなければいけない。

○杉野委員 3年前に鳥取に来た。最初は地元に戻ろうかなとも思ったが、やはり鳥取に残って仕事をしたいと思う。ただ、仕事はあるが、やりたい仕事とできる仕事というのはまた別。やりたい仕事を作っていくということが重要だと思う。

○橋本委員 仕事を作ることも大事だが、周囲の意見を聞くと、交通がとても不便で、こっちで仕事をしてもいいが、自宅から会社まで通うことを考えると難しいという話が出てくる。バスや汽車の本数が少なく、移動に時間がかかるので、公共交通の整備を考えてほしい。仕事は、鳥取では職種を選ばなくても就職はしづらいと思う。

○河毛委員 高齢者の住みやすいまちづくりが良い。現在、交通の便も悪い。高齢者の交通事故が多い。そうだとすれば、「東部地区は高齢者に対して安全装置のある車に対して補助金を交付する。」等の思い切った施策を実施する必要がある。移住定住の施策は全国でやっている。北海道や沖縄等、魅力のあるところはたくさんあるので、他県と差別化を図らなくてはならない。高齢者でも安全装置が付いていると悲惨な事故は起こりにくいと思うので、何歳までも免許証を返さなくて暮らせるまち等の特色あるまちづくりが良いと思う。

○景下委員 在住外国人も非常に増えている。しかし、大学生として在住されていて、鳥取の住みやすさ、人の良さでもっと住み続けたいと思われても仕事が無い人がいる。ネイティブイングリッシュの方であれば、英語教室や、プライベートスクールで生計を立てることができるが、マレーシア、インドの方が鳥取の良さに惚れ込まれて、その方々の奥様が就職しようとしても、日本語ができないということで仕事が無い。日本語教育とか文化的・宗教的背景もあるが、それを乗り越えて鳥取に住みたいと思っても仕事もない。在住外国人の誘致とか定住に関しての鳥取市としての考え方は。

○久野地域振興局長 本市の相談窓口には外国の方からの相談もある。ブラジルから、ブラジルで鳥取の人に良くしてもらい、鳥取に魅力を感じたので住みたいという相談もあったし、中国や中東・西アジアの方からの相談にも対応し移住定住を果たされている。できる限りの相談対応をしているところ。

○大田経済観光部長 地方創生を進めるうえで、外国人の方に移住をしていただくのは大きな視点

だと思っている。その部分がまだ若干足りない中で、経済団体からも要望をいただいている。ミスマッチもあると思うが、人材確保も大きな課題になっているとのこと。本市には人材がいない中で、高度な日本語を勉強してきた外国人をどんどん誘致していくことも必要だという意見も伺っている。

本市としても、そのことに取り組んでいきたい中で、やはり働いていただくとなると日本語ができないとうまくいかないの、そういう取り組みもしっかりしていただきたい。

市でも、国際交流プラザでボランティアが教えるが、地方創生のひとつとして、人材確保の観点で、もう少し体系的に動いていきたいと思う。

○森下委員 行政が地域をPRするときはまじめに考える。先日、テレビで、鳥取のことを、「西に鳥根県があり、東に兵庫県があり、真ん中に砂丘があって、砂丘の中に「ん」を入れて、「サンキウウのまち」と言っていた。麒麟のまちを全国に発信していくときは、このように、柔らかな発想で、全国の人に分かるようなアットホームな感じの言葉が欲しい。

○山脇委員 先日、鳥取市で全国合唱コンクールがあった。全国から集まるイベントを誘致すれば、全国各地から鳥取市に人が来て、交通機関、宿泊、観光地が潤うと思う。全国規模のコンクールやイベントを積極的に誘致してみてもどうか。ただ、問題は宿泊するホテルがないこと。

○藤縄会長 来年、北前船のイベントがある。以前、宿泊施設がなく、全国医師会等が誘致できないことがあった。施設を作るのはお金がかかるし、難しい部分がある。

○深澤市長 コンベンション誘致は非常に重要で、一番効果が高い。スポーツ、文学、大学関係等で、大きな経済効果が見込めるケースが多い。県・市やコンベンションビューロが一体となって誘致をやっている。市・コンベンションビューロでは、何人以上泊まったら補助をする制度もある。

北前船については、来年11月23日にやることになっている。多くの人に来てもらいたいと思っているが、宿泊施設については、圏域を合わせても2000～3000人分しかない。これから道路も整備されていくので、新温泉町、三朝町等とも一緒になってPRしていくことは大切だと感じている。

○河毛委員 外国の若い方が旅行する際、食事は質素でなるべく安いホテルに泊まるが、その分そこで楽しもうという考え方がある。だとすると、宿泊施設は仮設ホテルでもいいと思う。仮設ホテルであれば緊急避難所にもなるので、災害時、県外から避難していただくこともできる。

一流ホテルのようなサービスはできないが、安く日本に泊まって、いろんなところに遊びに行くことができ、1週間、1ヶ月間滞在できるシステムを考えれば、外国人は鳥取を拠点に、全国を回ることもできると思う。

○松下委員 誘客やまちを賑やかにしようという話がある中で、開会の挨拶で市長から美術館の話があった。美術館はぜひ建設していただきたい。最終的には県が決めることだが、我々は一生懸命声を上げて誘致したいと思う。現在の鳥取市の状況や方針等を聞きたい。

○深澤市長 冒頭の挨拶で触れたが、県から、候補地についてはアンケートを実施すると伺っている。アンケートが客観的なもので、データ等も公平、公正となるようお願いしたいと思う。現在、候補地が4箇所ある。そのうち2箇所が鳥取市。本庁舎跡と鳥取砂丘西側で、市街地型、郊外型が1箇所ずつ候補地としてあがっている。以前から本市に優位性はあると考えている。交通アクセスの良さ、類似施設等を含めた他の施設と連携が図られることなど。県は、年間20万人の入館者数を目標として掲げているが、これが達成できるのは本市であると考えている。また何よりも、日々、文化芸術活動に積極的に取り組んでいる方々が、たくさんいるのもこの本市を含む東部地域ではないのかと思っている。これらの優位性を、改めてアピールしたいと思っているが、何より様々な分野の皆さんと連携をしながら、美術館の設置、誘致についての機運を更に醸成しなければならない。まさにその時期ではないかと考えている。多くの皆様と一緒に引き続き設置に向け取り組んでいきたいと思っているので、どうぞよろしくお申し上げる。

○前田委員 先日の西郷地区の地域づくり懇談会でも意見が出ていたが、地域おこし協力隊の件。佐治町には4名いる。西郷地区も希望しているが、なぜ実現しないのか。

○久野地域振興局長 地域おこし協力隊は総務省の制度で、都市部の若者に地方で3年間働いても

らい、将来的に定住に結び付けるもの。現在、鳥取市は9名を採用している。各地域で活動してもらっているが、佐治には4名入っている。また、河原・用瀬・佐治エリアで1名が山の魅力を発信している。現在、市は広域的な動き方をする隊員を全体的なバランスを見ながら配置している状況である。

2年前、河原地域を対象に隊員を募集した経過がある。ただ、応募がなく取りやめた。全体的なバランスを見ながら、将来、定住に結び付く施策かどうか見極めながら実施している状況である。

○深澤市長 長時間に亘り、熱心に議論いただき、たくさんの意見、提言をいただき心より感謝申し上げます。

麒麟獅子で大いに議論を盛り上げていただいた。現在、日本遺産に認定されるべく取り組んでおり、文化庁記念物課に要望・相談し、助言をいただいている。本日の意見の中にも、記念物課の助言と相通ずる部分もたくさんあった。例えば、いつ行っても、どこでも麒麟獅子舞が見られることや、アピールできるようなストーリーを組み立てることなど。日本遺産認定は、全国で年間に80件くらい申請があり、認定されるのが20件くらいと、ハードルが高いが、しっかりと取り組んでいく。また、北前船も日本遺産の登録を目指して取り組んでいるところ。

移住定住については、本市も本格的に取り組み始めて10年が経過している。もっと鳥取の良さや魅力をアピールしながら、受け皿となる環境を整えなければならない。最近の傾向として、比較的若い方に本市への移住を果たしてもらっている。また、外国人の受入れについても、積極的に課題に取り組んでいきたい。民間が専門学校で高度な人材を育成する動きもあるので、本市としても積極的に受け入れをしていきたいと思う。

コンベンション誘致については、以前から取り組んでいる。先般も全国規模のコンベンションがあり、大変賑わった。引き続き、しっかりと取り組んでいきたい。

美術館については、これから佳境に入る。本市の優位性をしっかりとアピールしていきたい。

また、平成30年4月に中核市へ移行する準備を進めており、具体的な手続きに本格的に入るが、これはひとつの手段であって目的ではない。将来を見据えてこれからも魅力あるまちで発展していく、みんながここに住んで良かったなど、心底思えるまちでなければならないと思っており、市役所一丸となって全力で取り組んでいきたい。

長時間に亘り議論いただき、重ねて感謝申し上げます。本日は本当にありがとうございました。